連載 森の寺子屋かわら版

第三回～過去の「プレイヤー」を紹介します～

■お問い合わせ
政策推進課
☎4－2511内線231
☆4－2511102

先月号では過去「森の寺子屋」に参加したプレイヤーがどのような想いで「森の寺子屋」に参加し、何について取り組んできたのか紹介しました。今月号では、過去のプレイヤーのユニークで熱意あふれるチャレンジを紹介します。

つながりを大切にし、自然の中で一緒に生きる力を育み合いたい

多田はるひさんは２０１８年に下川町に移住しました。「時代や環境が変化しても、地球や人間にとって持続可能な生き方をしていきたい」と自身の想いを強く語る多田さんがこのような想いになったきっかけは３・１１でした。当時栃木県に住んでいた多田さんが３・１１によりライフラインが途絶えたとき、自身が何もできないことを実感しました。そのとき「生きる」ということを改めて考え始め、地球へ配慮することと、人を大切にすること、自然を大切にすることをコンセプトとし、人間本来の生き方を考える「パーマカルチャー」に魅了されるようになりました。

多田はるひ
２０１８年に東京から下川町へ移住。現在は森のようちえん「カカラ」を運営する

いつしか、人のつながりを大切にし、自然との共生ができる「なにか」をしていきたいと心に秘めるようになりましたが、移住して間もないことから、一緒に進めていく仲間もおらず、想いを形にすることができない中、なかなか一歩を踏み出せずにいたのでした。

ひとりではできなかった。森の寺子屋の出会いが実現につながった。

自身のやりたいことができずもどかしさを感じている中、チャレンジを応援する「森の寺子屋」の存在を知り、自身のやりたかったことを形にできるのではないかと思い、参加を決意。「森の寺子屋に参加して、仲間や人脈が広がったことがすごくよかった」と多田さんは言います。

自身の価値観を実現する方法のひとつとして、「森のようちえん（※）」を考え、想いを発表したところ、参加者から、他地域で同じような取組みをしている人や、森のようちえんの全国フォーラムの関係者を紹介してもらうことができました。

寺子屋の活動：ブレスト（アイデアの出し合い）の場

ひとりではできなかったことでも「森の寺子屋」を通していろんな人と出会い、仲間や人脈が広がったことが、チャレンジ実現への一番のカギであったと多田さんは言っています。

※【森のようちえん】
自然体験を基軸にした子育て・保育・乳児幼少期教育の総称。森だけでなく海、川、野山、里山、畑、都市公園など広義にとらえた自然体験をするフィールドをさし、各々の地域の特色を活かした活動されている人が多い。

森のようちえん「カカラ」スタート！

そして、「森の寺子屋」を通して得たヒントから、実現へ向け動き出しました。運営の方法を学ぶため鳥取県大山町で開催された「森のようちえん」全国フォーラムに参加し、その後森のようちえんを実行する有志を募り、２０１９年に森のようちえん「カカラ」を始動。

現在は想いに共感する親子や地域の仲間が集い、自主保育として週１回町内全域をフィールドに、子ども主体でその時々の自然の中での遊びを楽しむとともに、定期的な作戦会議を積み重ね活動を一緒につくっています。

ゆくゆくは「住んでいる人みんなで子どもを見守る地域であってほしい」と願うのでした。

しもかわまちづくりノートにて寺子屋のプレイヤーのインタビュー記事を掲載予定!

しもかわまちづくりノートで、広報しもかわで紹介しました佐藤飛鳥さん、多田はるひさんが森の寺子屋に参加するまでの想いやどのような行動をしてきたのか語っていただいたインタビュー記事を近日中に公開します。こちらもぜひご覧ください。

「しもかわまちづくりnote」にて
森の寺子屋情報を随時更新中